

## Ⅱ 実 践

＜実践例 1＞ 第1学年 平成30年5月

(三 澤 珠 栄)

### 1. 単元名 球技 ゴール型 タッチダウンパスゲーム

### 2. 単元の目標

- (1) 正しい投動作で味方にパスすることや、パスを受けるために相手をかわしてスペースに走りこんだりすることができる。 (技能)
- (2) 協力して分担した役割を果たそうとしたり、運動に何度も挑戦しようとしたりして、積極的に学習に取り組もうとしている。 (態度)
- (3) 学んだ知識を生かしてアドバイスや振り返りを行ったり、練習やゲームを通して自分の課題を見付けたりして、作戦に生かすことができる。 (知識、思考・判断)

### 3. 単元の評価規準

|                    |                                                     |
|--------------------|-----------------------------------------------------|
| 運動や健康・安全への関心・意欲・態度 | 協力して分担した役割を果たそうとしたり、運動に何度も挑戦しようとしたりしている。            |
| 運動や健康・安全についての思考・判断 | 学んだ知識をもとに仲間にアドバイスを行ったり、自己の課題を書いたり、話し合いの場で発言したりしている。 |
| 運動の技能              | 正しい投動作で味方にパスしたり、パスを受けるために相手をかわしてスペースに走りこんだりしている。    |
| 運動や健康・安全についての知識・理解 | 投動作の技能ポイントやボールを持たない時の動きのポイントを自分の言葉で書いたり話したりしている。    |

### 4. 学習計画（10時間計画）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

| 学習活動（時数）                                   | 目指す生徒の姿（観点）                                                                                                          | 教師の手立て                                                                                                    |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 種目特性を知り、試しのゲームを行う。（1）                   | ・意欲的にゲームやウォーミングアップに取り組もうとしている。<br>（関・意・態）                                                                            | ・基本技能を身に付けやすくするために、毎時間行うウォーミングアップを工夫する。                                                                   |
| 2. 基本技能のポイントを知る。（2）                        | ・投動作や捕球動作の技能のポイントについて、自分の言葉で記述している。<br>（知・理）                                                                         | ・技能のポイントが正確に理解できるように、図示したり、示範したりしながら説明する。                                                                 |
| 3. タスクゲームを通して、投動作と捕球動作の練習を行う。<br>（本時）（4／4） | ★投動作や捕球動作について自分の課題を的確に把握し、記述している。<br>（思・判）<br>★パスをもらうために、相手をかわしたり、スペースに走りこんだりすることを目指して、自分の課題を的確に把握し、記述している。<br>（思・判） | ★自己の課題に気付かせるために、必要に応じてタブレットPCを活用できるようにする。<br>★正しい投動作や捕球動作を身に付けさせたり、スペースの概念を持たせたりするために、ねらいが明確なタスクゲームを設定する。 |

|               |                                                                 |                                                           |
|---------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 4. ゲームを行う。(3) | ★自チームの課題に応じて、練習方法を選択したり、作戦を工夫したりしている。<br>(思・判)                  | ★自チームの課題に気付かせるために、ゲーム内の投球回数や捕球回数や、作戦で考えた動きについて記録させる。      |
|               | ・正しい投動作用でパスを出したり、捕球したり、パスをもらうために相手をおかわしてスペースに走りこんだりしている。<br>(技) | ★自チームの課題の解決のために、これまで行ってきた練習方法やタスクゲームを参考にして、適した練習方法を選択させる。 |
|               | ・ルールを守り、任された役割を協力して担おうとしている。<br>(関・意・態)                         | ・役割をしっかりと担わせるために、対戦するチームと審判チームを分け、分担を事前に決める。              |

## 5. 本時の指導

### (1) 目 標

パスをもらうために、相手をおかわしたりスペースに走りこんだりする、ボールを持たないときの動きについての自分の課題を的確に把握し、チームでの話し合いで発言したり、カードに記述したりすることができる。

### (2) 展 開

| 学習活動【学習形態】                                                                                                                                                                              | 目指す生徒の姿                                             | 教師の手立て                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 準備運動・ウォーミングアップをする。<br>【一斉】                                                                                                                                                           | ・正しい投動作や捕球動作をチーム内で互いに声を掛け合いながら確認している。               | ・前時までのポイントの理解を深めさせるために、グループ内で声を掛け合いながら練習を行わせる。                                                                                                                      |
| 課題 空いているスペースでパスをもらうためには？                                                                                                                                                                |                                                     |                                                                                                                                                                     |
| 2. タスクゲームを行う。<br>【チーム】                                                                                                                                                                  | ・スピードに緩急をつけたり、方向転換をしたり、フェイントを仕掛けたりして、相手をおかわそうとしている。 | ・相手をおかわすためのポイントを身に付けさせるために、必要な運動要素を取り出したタスクゲームを行う。                                                                                                                  |
| 3. ゲームを行う。<br>【一斉】                                                                                                                                                                      | ・タスクゲームで学んだポイントをゲーム内のプレーで発揮しようとしている。                | ★相手をおかわしてスペースに走りこむことができていたか確認するために、どこで捕球したかを記録させる。<br>★相手をおかわすポイントが身に付いていなければ、さらに定着を図るために、ゲーム間で再度タスクゲームを行う。<br>★ポイントを視覚的に把握させるために、うまくスペースに走りこむことができているチームを模範として見せる。 |
| <重点を置いた保健体育科の資質・能力を発揮している姿><br>★ゲームの場面で、以下のような姿が見られる。<br>・相手をおかわして、空いているスペースに走りこんでいる。<br>・仲間に対して、どうスペースに走りこんだらよいかアドバイスしたり指示したりしている。<br>・どうしたらスペースに走りこむことができるか、自己の課題について発言したり書き出したりしている。 |                                                     |                                                                                                                                                                     |
| 4. 振り返りをする。<br>【グループ→個】                                                                                                                                                                 | ・相手へのおかわし方やスペースへの走り方について互いにアドバイスし合っている。             | ・自己の課題を次時につなげるために、必要な練習方法を学習カードに記入させる。                                                                                                                              |

### (3) 評価とその方法

パスをもらうために、相手をおかわしたりスペースに走りこんだりする、ボールを持たない時の動きについての自分の課題を的確に把握し、チームでの話し合いで発言したり、カードに記述したりすることができているかを、学習活動2と学習活動3の生徒の発言内容や学習活動4の学習カードの記述内容から評価する。

## 6. 授業を終えて

### 【事後研究会から】

実践を通しての成果(○)と課題(▲)は以下の通りである。

○本教材は、投能力及び認知力・思考力の向上を目指し、山形大学地域教育文化学部の鈴木和弘教授が開発されたゴール型球技のニュースポーツ「タッチダウンパスゲーム(仮称)」である。相対する2人チームで、ディフェンスをおかわしながらボールをパスし合い、ゴールエリアにボールを運ぶことで得点となる。ルールやゲーム展開が難しくなく、小学校低学年から実施できる種目である。今回、中学校で初めて実施することで、本教材の可能性を探った。結果、投能力は以下のように変容した。

ハンドボール投げ記録(新体力テストと同様実施)は、男女合わせた平均値で見て1m程度の向上があった。女子の方がより記録が向上している。また、投動作フォームについては、『小学校児童における走・跳及び動作の発達:高木・出井・尾懸』の「表4 投運動の観察的動作評価基準」を活用して得点化した。男子は単元前3.45→単元後3.77、女子は単元前2.12→単元後3.18に変化した。女子の方に大幅な向上が見られた。投運動に関して、この教材に有意性があるといえるのではないだろうか。本教材と投能力の分析に関しては、山形大学の学部生である星野ひかりさんが卒業論文で詳しく述べている。

シンプルで分かりやすい教材でもあり、今後も更なる工夫を重ねていくことで様々な可能性がある。今後も継続的に実施していきたい。

○段階的練習として、タスク練習で動きのパターン練習をほぼ毎時間取り入れて行ってきた。それらの動きをゲームで活用していくことで、「スペースをつくる」「スペースをつぶす」という動きが現れるようになり、生徒達の振り返りの記述内容からもスペースをつくる意識の向上が見られるようになった。また、年度の最後にゴール型球技の発展としてハンドボールを実施したが、その中でも、タッチダウンパスゲームで学習した「スペースをつくる」ための動きや、チーム内での話し合いの中でも既習の用語が出てくるなどの場面があった。単元の始めに、タッチダウンパスゲームの学習カードを見ることで既習事項を確認し、スムーズに単元に入ることができた。

▲単元が進んでいくにつれ、「わかっているけど、できない」「やってみたけど、うまくいかない」などという内容の記述が増えてきた。基礎練習でできるようになったことが、仲間や相手の動きが加わることで複雑化し、できなくなってしまうことがある。特に、体力のない生徒や運動経験が少ない生徒にその傾向が多い。授業の中の練習の前後やゲームの前後で、チーム内で互いに話す機会を設けることで自発的な動きが現れるようになり、思考力の向上を実感する場面もあった。しかし、技能向上のためにはたくさんボールを触り、何度も繰り返して練習するという時間と機会の確保がやはり必要である。話し合いの時間を設けるだけでなく、練習やゲームの中で動きながら、気付いたことについて声を掛け合えるような力をこれまで以上に高めていき、話し合う時間を少しでも運動時間へ移行していきたい。